

岡山県におけるモモ野生種の探索収集

三宅正則・土師 岳・山口正己

果樹試験場・育種部・育種第3研究室

Exploration and collection of Native Varieties of Peach (*Prunus persica*) in Okayama Prefecture

Masanori MIYAKE, Takashi HAJI
and Masami YAMAGUCHI

Third Laboratory of Breeding, Division of Fruit Breeding, Fruit Tree Research Station, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan

Summary

It is expected that native peach varieties have useful characters, especially bacterial leaf spot resistance and water tolerance. However, the number of native peach varieties rapidly decreased in recent years. It is necessary to collect and preserve them as a genetic resources. The present exploration for native peaches were carried out at Okayama prefecture from August 31 to September 1 in 1993. During this exploration, scions for bud grafting were collected from 11 trees and fruits were also collected from 7 trees. Fruit weight varied from 10.7g to 33.8g. Freestone and clingstone types were observed. One sample was nectarine. These native peach varieties were expected to have water tolerance because natural habitat of them located in riverside or damside where the soil was relatively humid.

1. 目的

モモの重要な病害の一つである細菌病は、薬剤による決定的な防除が難しく、モモの生産地拡大を抑制する要因となっている。また、モモは接木繁殖による栽培が慣例となっているが、現在利用されている台木品種の中には、耐水性に優れたものが乏しい。現在、モモ生産農家の間では、細菌抵抗性を有する品種や耐水性を持つ台木品種の開発が強く望まれている。高温・多湿の気象条件下で自生しているわが国の野生モモの中には、細菌病抵抗性や耐水性を持つ個体の存在が期待される。最近の針葉樹林化や山林開発に伴い、山野に自生する野生モモが減少しつつあり、これらの遺伝資源を緊急に収集し保存する必要がある。

2. 調査方法

調査は1993年8月31日から9月1日まで実施した。調査地域を Fig. 1 に示した。

8月31日に岡山県立農業試験場において、高木伸友果樹部長及び笹辺幸男研究員より、岡山県内に自生する野生モモに関する情報を収集するとともに、過去に岡山県で実施された野生モモの収集・探索の際に集められ、場内で保存中の野生モモを調査した。

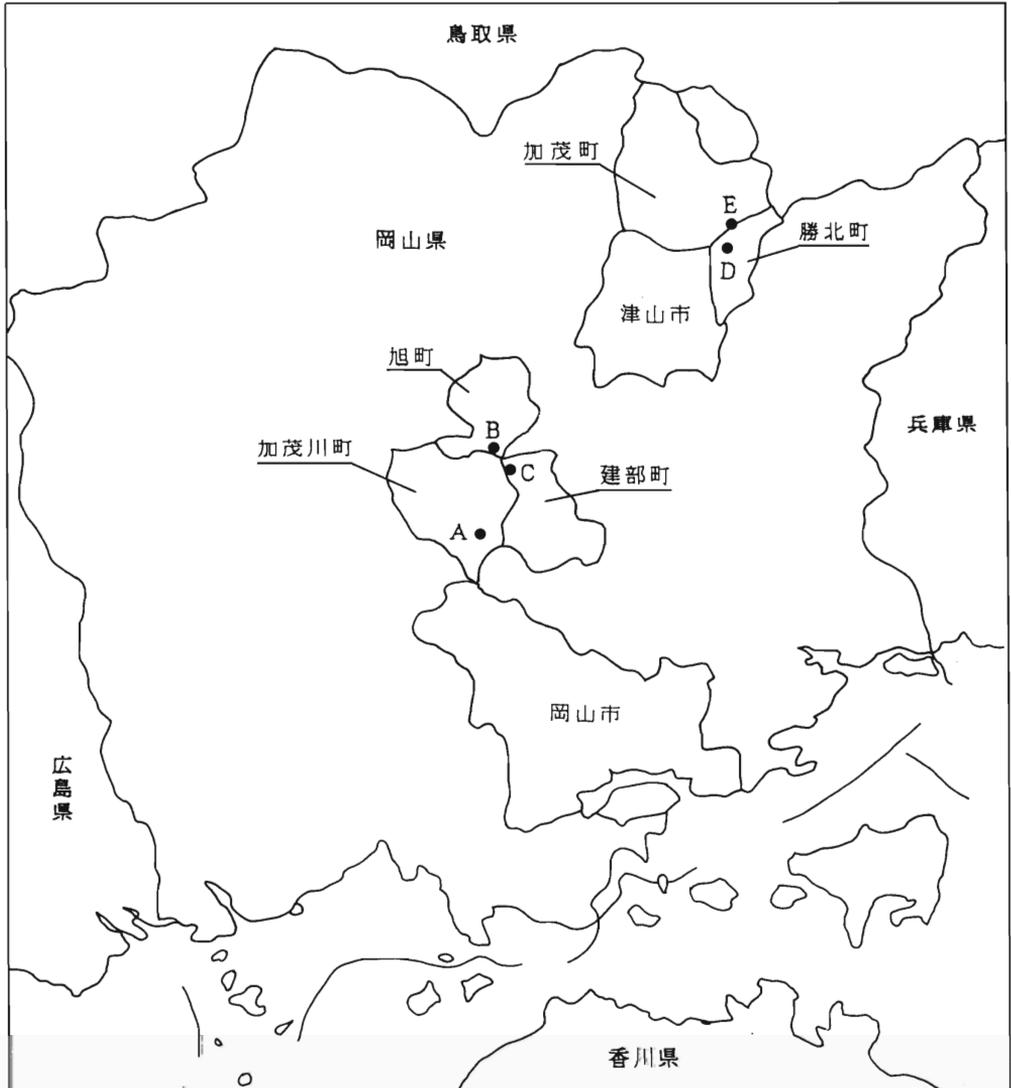


Fig. 1 Locality of collection

調査・収集地点

- A地点：御津郡加茂川町宇甘溪北部県道沿い
- B地点：久米郡旭町栃原旭川ダム沿岸県道沿い
- C地点：御津郡建部町曲り旭川第1堰堤車止め
- D地点：勝田郡勝北町声ヶ丸スカイライン沿い
- E地点：苫田郡加茂町津川川ダム湖沿岸

9月1日には、笹辺研究員及び自生モモの収集家の岡山県立瀬戸南高等学校の苅田実氏の案内で、野生モモ自生地を調査した。現地では、主に芽接ぎ用の穂木を収集し、一部可能なものについては果実も採取した。なお、岡山県立農業試験場で収集野生モモについても、一部穂木と果実の提供を受けた。

3. 調査地域の特徴

調査は野生モモの自生が確認されている岡山県内の5地域について行った。

最初に調査を行ったのは、御津郡加茂川町の旭川支流、宇甘溪北部の自生地 (Fig. 1. A 地点) である。この地域では、野生モモが宇甘川沿いの県道脇の斜面に約20本ほど点在しており、採取可能な2点を収集した。この自生地は、県道の落石防止ネットの上には生えている樹から落下した果実(種子)を近隣の農家が採取し、台木として利用し始めたことから確認された。

次に、御津郡加茂川町、建部町及び久米郡旭町の町境に位置する旭川ダム湖沿岸の自生地において、調査・収集を行った。旭町の栃原地区 (Fig. 1. B 地点) では、ダム湖東岸の県道沿いに群生点在しており、その内の採取可能な2点を収集した。この地域には約50本が自生し、群落としてはかなり大きいのが、杉林等の陰となっているため、全体的に樹勢が弱く、大木はみられなかった。また、県道をダムに沿って南に下った建部町曲り旭川第1堰堤付近 (Fig. 1. C 地点) においては、県道沿いの車止め脇に、10~15年は経過していると思われる大木が自生していた。今回の調査地では唯一、足場が良好で採取も容易であった。また、多数の果実が結実していたことから、かなり豊産性の系統であると考えられる。

津山市の東に隣接する勝田郡勝北町において調査を行った。津川川ダムと国道53号線を連絡する声ヶ峠スカイライン峠付近 (Fig. 1. D 地点) より麓にむけて、垂直方向に約20本が点在していた。山頂付近にあった樹から落下した果実に由来する実生が山裾に向かって繁殖したと思われる。この地域の樹は比較的大木が多かったが、これは昭和60年の国際森林年にこの付近を整備し、植樹をした際に小さいものは伐採され、大きいもののみが残ったためであるとのことである。

また、苫田郡加茂町津川川ダム湖沿岸 (Fig. 1. E 地点) においては、現在建設中の津川川ダム周辺を探索した。過去には津川川沿いの両岸に約50本の野生モモが数10m おきに点在していたというが、現在は建設中のダムのため樹のかなりが水没し、今後全滅の恐れがあるとのことである。この自生地は、岡山県立農業試験場において昭和20年代に実施した台木品種の選抜試験を行った際の県内探索で確認された。岡山県立農業試験場では、水没により全滅することを考慮し、その内の数系統の実生や穂木を採取し、試験場内で保存しているとのことである。時間の都合上、現地での採取が困難であったため、試験場で保存しているものより5系統の提供を受けた。

4. 収集品種の特徴

収集した系統の内訳とその特性を Table 1 に示した。

宇甘溪や旭川ダム湖畔に自生していた野生モモの現地での樹勢は、採取できなかった樹も含め、全般的に弱かった。これは谷間の急斜面に生えており日照時間が短かいうえ、他の樹木の陰となっていることによると思われる。声ヶ峠スカイライン沿いに自生している野生モモの樹勢はやや強いが、以前に弱いものが淘汰されたことや下草等が管理されていることを考慮すると、自然条件下では特に他の個体より強いとは思われなかった。津川川の系統については、岡山県立農業試験場において、接木し複製樹としたものであるため樹勢はやや強かったが、現地での樹勢は不明である。

Table 1 A collection list of *Prunus persica* in Okayama prefecture
岡山県で収集した自生モモの一覧

収集番号	種属名	収 集 地	樹勢
OKA93-01	<i>P. persica</i>	御津郡加茂川町宇甘溪北部県道沿い	弱
OKA93-02	〃	〃	弱
OKA93-03	〃	久米郡旭町栃原旭川ダム沿岸県道沿い	中
OKA93-04	〃	〃	弱
OKA93-05	〃	御津郡建部町曲り旭川第1堰提車止め	弱
OKA93-06	〃	勝田郡勝北町声ヶ峠スカイライン沿い	強中
OKA93-07	〃	岡山県立農業試験場品種保存園 (苫田郡加茂町津川川ダム湖沿岸)	強中
OKA93-08	〃	〃	強中
OKA93-09	〃	〃	強中
OKA93-10	〃	〃	強中
OKA93-11	〃	〃	強中

収集番号	果形	果皮色	着色	果実重	毛じ		粘離	核重
					長さ	密度		
OKA93-01	卵円	緑	無	10.7g	短	中	離核	2.1g
OKA93-02	卵円	緑	—	—	—	—	—	—
OKA93-03	短楕円	緑	無	24.3g	中	密	粘核	3.8g
OKA93-04	短楕円	緑	—	—	—	—	—	—
OKA93-05	短楕円	緑	無	18.2g	短	極密	粘核	4.7g
OKA93-06	短楕円	緑	—	—	—	—	—	—
OKA93-07	円	緑	無	33.8g	中	極密	離核	4.0g
OKA93-08	楕円	緑	無	29.2g	中	極密	離核	3.8g
OKA93-09	円	緑	少	23.0g	中短	極密	離核	2.0g
OKA93-10	—	緑	—	—	—	—	—	—
OKA93-11	円	緑	無	16.8g	無	無	半粘	3.7g

収集した系統のうち、可能なものについては、現地で結実している果実を収穫した。収穫した地域によって、果形、果実重や核の粘離性に差異が認められた。宇甘溪で採取した系統（OKA-93-01）は、離核で、果形は縦長であり、果実重は約10gと小さく、他の地域の系統とは明らかに異なっていた。旭川ダム湖畔で採取された系統（OKA-93-03,05）は、両系統とも粘核で、果形は短楕円であったが、OKA93-05の種子は他の地域の系統と比べても大きく、OKA-93-03とは異なっていた。また、津川川ダムにおいて収穫された系統（OKA-93-07,08,09,11）は、果実重が16.8～33.8gとばらつきがみられた。特に、OKA-93-11は毛無しモモ（ネクタリン）で、他とは異なり、同地域に自生するモモの間においても果実特性に相違があることが示された。今回、収集された各系統の果実は、その大きさや形に差異が認められるものの、現在の栽培品種と比較すると明らかに果実が小さく、すでに果樹試験場に導入されている秋田野生桃、秩父野生桃や能登在来桃に近いものであった。

収集した各系統については、現在、果樹試験場千代田圃場において、芽接ぎをして育苗中である。今後は特性調査を行い、栽培性や果実特性、細菌病抵抗性、耐水性等を明らかにする予定である。

5. 所感

今回調査を行ったモモの自生地は、岡山県内の自生地の一部であり、モモの自生地に詳しい荻田氏の話では、この他にも県内をはじめ、鳥取や兵庫の県境付近にも多数みられるとのことである。今後、さらに期間を延長するとともに、調査範囲を拡大した探索・収集が必要であると思われる。

今回の探索にあたって、資料の提供から保有する自生モモの穂木の提供等、快く協力してくださった岡山県立農業試験場の皆様に御礼申し上げます。特に高木果樹部長と笹辺研究員には、事前打ち合わせから現地への案内と貴重な時間を割いていただきありがとうございました。また、突然の依頼にもかかわらず、快く自生地の資料を提供していただいた上、同伴までしてくださった岡山県立瀬戸南高等学校の荻田実氏に感謝いたします。

6. 参考文献

- 1) 菊池秋雄 1948. 果樹園藝学 上巻 果樹種類各論 養賢堂
- 2) 宮澤文吾 1940. 花木園藝 八坂書房
- 3) 佐藤義彦・壽和夫・阿部和幸・斉藤寿広 1992 西日本地域における野生グリの収集 植探報 8 : 35～42